

平成26年度 中間決算概要

1. 連結決算概要（経営成績）

単位：億円〔単位未満切捨て〕

区 分	H25年度 上期実績	H26年度 上期実績	対前年増加額・率		H25年度 通期実績	H26年度 通期見込 ※1
	A	B	B-A	(%)		
営業収益	4,356	4,620	264	6.0%	8,590	11,177
高速道路事業	4,077	4,290	212	5.2%	7,858	10,492
(料金収入)	3,434	4,012	577	16.8%	6,589	7,657
(道路資産完成高)	611	242	△ 368	△60.3%	※2 1,174	2,760
(その他の営業収益)	31	35	3	12.0%	94	74
関連事業	300	354	54	18.2%	780	740
(SA・PA事業)	248	239	△ 8	△3.5%	452	447
(受託・その他の事業)	51	115	63	123.5%	327	293
セグメント間取引の消去	△ 20	△ 24	△ 3	-	△ 48	△ 55
営業費用	4,024	4,310	286	7.1%	8,558	11,116
高速道路事業	3,775	4,003	228	6.0%	7,861	10,456
(道路資産賃借料)	2,311	2,772	460	19.9%	4,618	5,484
(道路資産完成原価)	611	242	△ 368	△60.3%	※2 1,194	2,760
(管理費用等)	852	989	136	16.0%	2,048	2,211
関連事業	269	330	61	22.8%	744	716
(SA・PA事業)	216	215	△ 1	△0.5%	416	422
(受託・その他の事業)	53	115	62	118.2%	328	294
セグメント間取引の消去	△ 20	△ 24	△ 3	-	△ 48	△ 56
営業利益	332	310	△ 22	△6.6%	32	60
高速道路事業	302	286	△ 15	△5.1%	△ 3	36
関連事業	30	24	△ 6	△21.4%	35	24
経常利益	344	324	△ 20	△6.0%	57	84
中間純利益	201	243	42	20.8%	22	92

※1) H26年度通期見込は、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいており、多分に不確定な要素を含んでいます。実際の業績は様々な要素により、上記の計画と異なる可能性があることをご承知おき下さい。

※2) 安全性確保のための緊急修繕の一部については、これに要する費用である20億円について、高速道路機構に債務引渡しを行わない事業として実施しました。これにより、H25年度通期実績においては、道路資産完成高に対して道路資産完成原価が20億円上回りました。

(注) 当社グループの事業区分及びその主要内容は、以下のとおりです。

事業区分	主要内容	
高速道路事業	高速道路の新設、改築、維持、修繕、災害復旧その他の管理等	
関連事業	SA・PA事業	高速道路の休憩所、給油所等の建設、管理等
	受託事業	国、地方公共団体等の委託に基づく道路の新設、改築、維持、修繕等、その他委託に基づく事業等
	その他の事業	駐車場事業、トラックターミナル事業等

2. 高速道路事業の営業概況(連結)

(1) 平成26年度上期の損益状況

➤ 高速道路事業の営業収益のうち、料金収入は、利便増進計画の終了に伴う料金割引の再編※等により、前年同期比577億円増の4,012億円となりました。

営業費用のうち、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構(以下「高速道路機構」といいます。)に対する道路資産賃借料は、前年同期比460億円増の2,772億円となりました。また、管理費用等は、ETCマイレージ等費用の増加※や保全点検の強化などにより、前年同期比136億円増の989億円となりました。

以上のことなどから、平成26年度上期における高速道路事業の営業利益は、前年同期比15億円減の286億円となりました。

※ 昨年度まで実施していた通勤割引では、料金収入は割引後の金額を計上していましたが、平成26年4月から導入された平日朝夕割引では、割引分を翌月に還元する仕組みのため、今期の料金収入は割引前の金額を計上しています。割引(還元)分は今期から管理費用等に計上しています。

➤ 当社が建設した道路資産は、工事完了後に高速道路機構へ帰属し、同時に当社が道路建設のために負担した債務は、高速道路機構へ引渡します。

平成26年度上期においては、圏央道(稲敷IC～神崎IC)の開通などにより、道路建設完成までに要した費用である道路資産完成原価を242億円(前年同期比368億円減)計上し、債務引渡し額である道路資産完成高を同額計上しています。

(2) 高速道路事業の損益の特徴

➤ 当社においては、高速道路の料金収入は下期に比べて上期のほうが多く、管理費用は下期のほうが冬期の雪氷対策費用などにより、上期に比べて多くなる傾向があります。

このため、上期の営業利益は286億円ですが、下期は250億円の損失を見込んでおり、この結果、通期では36億円の営業利益を見込んでいます。

■平成26年度高速道路事業 営業損益(連結)

単位：億円〔単位未満切捨て〕

区 分	上期実績 ①	下期見込 ②	通期見込 ①+②	
営業収益	4,290	6,202	10,492	
(うち料金収入)	4,012	3,644	7,657	上期>下期
営業費用	4,003	6,452	10,456	
(うち管理費用等)	989	1,222	2,211	上期<下期
営業利益(損失)	286	△250	36	

3. SA・PA事業の営業概況(連結)

平成26年度上期の損益状況

- SA・PA事業については、消費税率引上げ等の影響で店舗売上高が前年同期に比べ減少したことなどにより、営業収益は前年同期比8億円減の239億円、営業費用は前年同期比1億円減の215億円となりました。
- この結果、平成26年度上期の営業利益は、前年同期比7億円減の24億円となりました。

【参考】

個別決算概要(経営成績)

単位:億円 (単位未満切捨て)

区 分	H25年度 上期実績 A	H26年度 上期実績 B	対前年増加額・率		H25年度 通期実績	H26年度 通期見込 ※1
			B-A	(%)		
営業収益	4,153	4,424	270	6.5%	8,214	10,819
高速道路事業	4,047	4,256	209	5.1%	7,787	10,429
(料金収入)	3,434	4,012	577	16.8%	6,589	7,657
(道路資産完成高)	611	242	△ 368	△60.3%	※2 1,174	2,760
(その他の売上高)	1	2	0	9.6%	23	11
関連事業	105	167	61	58.4%	427	390
(SA・PA事業)	53	51	△ 2	△3.7%	99	96
(受託・その他の事業)	51	115	63	123.5%	327	293
営業費用	3,841	4,126	284	7.4%	8,242	10,809
高速道路事業	3,747	3,969	222	5.9%	7,826	10,427
(道路資産賃借料)	2,311	2,772	460	19.9%	4,618	5,484
(道路資産完成原価)	611	242	△ 368	△60.3%	※2 1,194	2,760
(管理費用)	824	955	130	15.8%	2,013	2,182
関連事業	94	156	62	65.5%	416	381
(SA・PA事業)	41	41	△0	△1.3%	87	87
(受託・その他の事業)	53	115	62	118.2%	328	294
営業利益	311	297	△ 14	△4.5%	△ 28	10
高速道路事業	300	287	△ 13	△4.5%	△ 39	1
関連事業	10	10	△0	△4.3%	10	8
経常利益	345	329	△ 15	△4.5%	8	44
中間純利益	212	204	△ 7	△3.7%	△ 1	29

※1) H26年度通期見込は、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいており、多分に不確定な要素を含んでいます。実際の業績は様々な要素により、上記の計画と異なる可能性があることをご承知おき下さい。

※2) 安全性確保のための緊急修繕の一部については、これに要する費用である20億円について、高速道路機構に債務引渡しを行わない事業として実施しました。これにより、H25年度通期実績においては、道路資産完成高に対して道路資産完成原価が20億円上回りました。

■トピックス(平成26年度上期の主な取り組み)

【高速道路事業】

■新規開通(ネットワークの整備)

首都圏中央連絡自動車道(圏央道)稲敷(いなしき)IC～神崎(こうざき)IC間(10.6km)が平成26年4月12日に開通しました。



圏央道 稲敷IC



開通式

■渋滞対策及び災害復旧

京葉道路の穴川IC～貝塚IC間において、渋滞対策として整備を進めている付加車線の運用を、平成26年4月24日に一部開始しました。

また、上信越自動車道の佐久IC～碓氷軽井沢IC間(上り線)の盛土のり面に生じた変状について、応急復旧工事を実施し、平成26年7月18日から2車線通行可能としました。



付加車線の運用状況



応急復旧工事状況

【関連事業】

■磐梯山SA(下り線)のリニューアル工事及び「ドラぷら」のリニューアル

地域性・旅の楽しみを凝縮した旅のドラマを演出する「ドラマチックエリア」として、磐越自動車道磐梯山SA(下り線)[平成26年11月22日オープン]のリニューアル工事を実施しました。

また、高速道路の情報サイト「E-NEXCOドライブプラザ」(ドラぷら)を、平成26年7月29日に全面リニューアルしました。



磐越道 磐梯山SA(下り線)



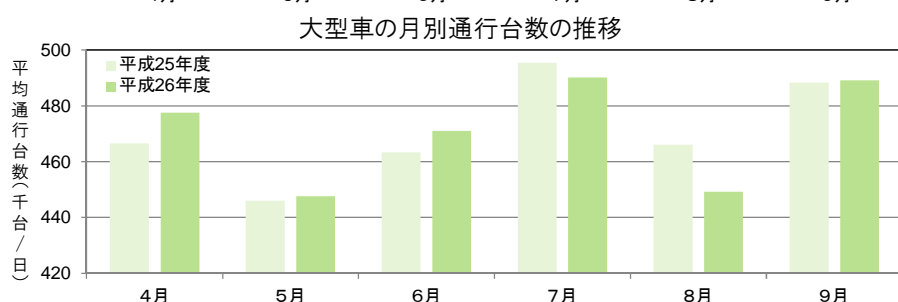
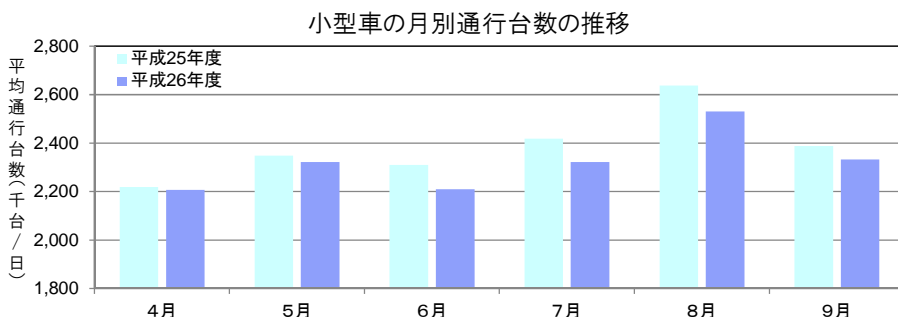
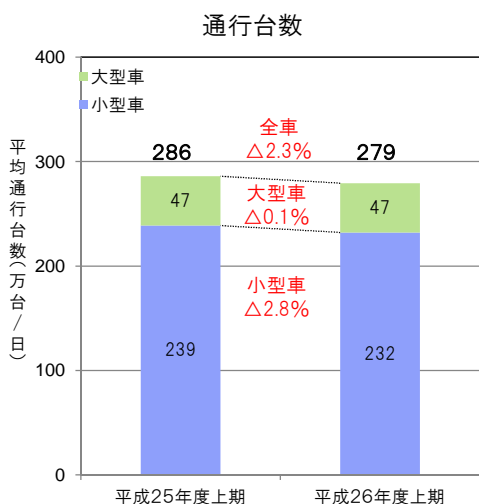
「ドラぷら」のリニューアル

平成26年度上期の営業概要（通行台数）



(1) 通行台数(前年度比)

通行台数は、279万台／日となり、前年度に比べて2.3%減少しました。車種別では、小型車は2.8%、大型車は0.1%それぞれ減少しました。



平成26年度上期の営業概要（SA・PA店舗売上高）



(2) SA・PA店舗売上高(前年度比)

SA・PA全体の店舗売上高は、790億円となり、前年度に比べて3.1%減少しました。内訳としては、飲食・物販は2.5%、ガステーションは4.4%それぞれ減少しました。

